

品名	炭酸ガス（別名：二酸化炭素）	国連番号	1013
----	----------------	------	------

該当法規・危険有害性

消 防 法						毒 物 及 び 劇 物 取 締 法			高 圧 ガ ス 保 安 法		火 薬 類 取 締 法			道 路 法		
類 別						品 名 (法別表)	毒 物	劇 物	特 定 毒 物	一 般 高 圧 ガ ス	液 化 石 油 ガ ス	火 薬	爆 薬	火 工 品	施行法令 第19条の12, 13に該当	
第1類	第2類	第3類	第4類	第5類	第6類											

										●						●
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	--	--	--	--	--	---

特 性	危 険 性				有 害 性				環 境 汚 染 性		性 状			
	禁水性	爆発性	可燃性	支燃性	有 毒 ガ ス 発 生			目・皮膚に 触れると 危険	河川への 流入注意	固 体	液 体	気 体	水 溶 性	
					常 温	加 熱 時 火 災 時	水 に 接 触							

										●						●		●
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	--	--	--	--	--	---	--	---

事故発生時の応急措置

- ① 車を安全な場所に移動する。(人家や人ごみを避け、できるだけ交通の障害にならないような場所に移動し、エンジンを停止し、車止めをする。)
- ② 事故の発生を大声で告げ、下記事項を消防署及び警察署に通報し、風上に避難させる。
- ③ 容器をシート等で覆っている場合は取り除き、ガスが滞留しないようにする。
- ④ 風上より災害拡大防止措置（漏れ止め、容器冷却、容器移動等）を行う。
- ⑤ 酸素欠乏に注意する。
- ⑥ 下記事項を関係機関（荷主会社、運送会社、地域防災組織等）へも連絡する。

緊急通報

119（消防署）110（警察署）高速道路等の非常電話

[緊急通報例]

1. いつ ○○時○○分頃
2. どこで ○○市○○地区（国・県・市）道○○線○○付近で
3. なにが 「炭酸ガス（別名：二酸化炭素）（高圧ガス）」が
4. どうした 漏れています
5. ケガ人は ケガ人がいます（救急車をお願いします） ケガ人はいません
6. 私の名前は ○○運送会社 ○○です

緊急連絡（特に休日・夜間に確実に連絡が取れる部署の電話番号を記入する）

荷主会社		運送会社	
住所		住所	
電話	平日・昼間 休日・夜間	電話	平日・昼間 休日・夜間

品名	炭酸ガス（別名：二酸化炭素）	国連番号	1013
----	----------------	------	------

災害拡大防止措置

特記事項	処理剤
<p>① 皮膚に触れるとしもやけ（凍傷）を起こす</p> <p>② 容器充てん圧力：20℃で 5.6MPa（57 kg/cm²）[ゲージ圧力] 30℃で 7.1MPa（72 kg/cm²）[ゲージ圧力]</p> <p>相対密度 ：1.54（空気=1 空気より重い）</p> <p>色・におい ：無色・無臭</p> <p>容器外面の塗色：緑色</p> <p>③ 高濃度の炭酸ガス中では酸素欠乏症となるおそれがある。人体に対する影響は次のとおり。</p> <p>二酸化炭素濃度（%） 影響（通常酸素濃度における）</p> <p>0.5 長期安全限界</p> <p>1.5 作業性及び基礎的生理機能に影響を及ぼさずに長時間にわたって耐えることができる。</p> <p>3.0 作業性低下</p> <p>5.0 呼吸が困難になる。30分の暴露で中毒症状。</p> <p>7~9 許容限界。約15分で意識不明となる。</p> <p>10~11 調整機能不能。約10分で意識不明となる。</p> <p>25~30 呼吸低下：血圧降下：昏睡：反射能力喪失：麻痺、数時間後に死に至る。</p>	

漏洩・飛散したとき

- ① 漏えい箇所付近及び風下の通行人及び他の車などを速やかに退避させ、関係者以外の立ち入りを禁止し、通風を考慮して拡散を図る。
- ② 炭酸ガスは空気より重い（空気の1.5倍）ので、低い場所に滞留して高濃度になり易い。高濃度の場所では酸欠・中毒の恐れがあるので注意する。
- ③ 漏えい箇所が修理可能な場合には、皮手袋、保護眼鏡、空気呼吸器等の保護具を着用し、凍傷にならぬよう注意して修理する。

周辺火災のとき

炭酸ガスは不燃性であるが、容器の圧力上昇を防ぐために次の処理を行う。

- ① 容器を安全な場所へ移動する。
- ② 移動不可能な場合は、容器の破損防止のために容器及び周囲に散水する。
- ③ 状況によりガスブロー弁・液出口弁又は容器弁を開放する。放出口付近は、凍傷・酸欠・中毒などの恐れがあるため、人を近づけないようにする。

救急措置

- ① 多量に吸入した場合は、直ちに患者を毛布等にくるんで安静にさせ、新鮮な空気のある場所に移す。呼吸が停止しているときは人工呼吸を行う。呼吸困難なときは酸素吸入を行う。
- ② 凍傷の場合は、凍傷の部分をこすらず、患部を温湯で徐々に温めて常温に戻し、その後ガーゼなどで保護する。

患者が発生した時は、できるだけ早く医師の手当てを受ける。